平成２７年度「総括評価表」(徳島県立城南高等学校)

自　己　評　価					学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善の方策
重点目標	重　点　課　題	具体的な対策とその評価指標（⇒印）	活動の実施状況と評価指標の達成度（⇒印）	総合評価（所見）	学校関係者の意見	
学力向上の推進	教員の指導力を高め，わかりやすく生徒が興味・関心を持てる授業を実践する。	各学期に授業参観週間を設け，同一教科の教員による授業見学，管理職による年間２回の授業観察などを実施し，教科指導力の向上を図る。 ⇒生徒による授業評価の授業満足度　８０％以上	教師それぞれが，わかりやすく生徒が興味・関心を持てる授業に努め，授業評価を１学期末・２学期末の年２回実施した。その結果をもとに授業方法の改善に取り組んだ。 ⇒生徒による授業評価での授業満足度は １年生　８６％ ２年生　８６％ ３年生　９０％ であった。	A 目標を上回っているが，さらに，各教科で指導力を高めていきたい。また，３年生の放課後補習の充実にも努めていきたい。	・今年度から授業時数も増えたと聞いている。今までも授業内容の工夫・改善等努力があったと思うが，今後も継続・向上に努めていただきたい。	学ぶことの楽しさやすばらしさに気づいてもらえるような魅力的な授業を目指したい。 また，現在の学びが自分の将来にどのようにつながっていくのかを理解させ，生徒自らが学ぶ姿勢を育てていきたい。
進路指導の充実	家庭学習の重要性を理解させ，自ら学ぶ姿勢を育成し，学習習慣の確立に努める。	「自主自立ノート」や面談などを利用して生徒に家庭学習の重要性を認識させるとともに，学習時間調査を定期的に実施し，生徒の学習の状況を教師間で把握し，その結果をもとに各教科で週末課題や宿題を課すなどして学習習慣の定着を図る。 ⇒平均家庭学習時間（週） １年　１６時間以上 ２年　１６時間以上 ３年　２１時間以上	毎日の「自主自立ノート（生活記録）」を継続的にとることで，生徒が自身の時間管理をすることにつながった。また，担任は生徒の学習状況を把握し，その結果をもとに各教科で学習習慣の定着を図る取り組みを行った。 ⇒連続する７日間（１週間）の家庭学習時間調査を年間８回実施した。１週間当たりの家庭学習時間の平均は， １年生　１３．７時間／週 ２年生　１４．６時間／週 ３年生　１９．５時間／週 であった。	B 家庭学習時間は目標を下回っている。家庭で学習することの必要性を繰り返し指導し，多くの生徒が所属している部活動との両立をしっかりやり遂げさせたい。	・様々な工夫や努力をしていると思うが，さらに生徒の進路実現が叶うような取組を期待している。 ・全体的に狭い視野で考えてしまう生徒が増えているように感じる。手間がかかると思うが，丁寧な対応が必要とされている。	進路目標の実現には高い学力が必要であるということを生徒たちにしっかりと理解させ，毎日の宿題や小テストの実施などの取組を通して，日頃から家庭学習をする習慣を身につけさせたい。 進路講演会や大学模擬授業体験など，将来の自分の進路について考えさせる機会を増やしていきたい。
生徒指導の充実 保護者等との連携の強化	遅刻防止に努め，保護者と連携して生活改善を図る。	遅刻防止については，担任による常時指導（家庭への連絡を含む）とともに，遅刻常習生徒については保護者を召喚し，生徒本人を交えて，担任や学年主任，生徒指導課長で生活改善について話し合う。 ⇒遅刻率　１％以内 ⇒遅刻ゼロの日年間　４日以上	本年度は，学校全体の遅刻ゼロの日が大幅に増え，生徒の時間を守る意識が向上した。 ⇒全校遅刻率は０．６９％，遅刻ゼロの日は全校で６日であった。 学年ごとでは， １年生遅刻率０．５８％・遅刻ゼロ４９日， ２年生遅刻率０．５９％・遅刻ゼロ４４日， ３年生遅刻率０．８９％・遅刻ゼロ１８日 であった。	A 目標値は達成できたが，遅刻者数については，本年度も学年によって差があった。今後も引き続き，学年格差をいかに改善していくかが課題である。	・交通マナーも以前より改善し，全体的に良い学校になっていると感じている。 ・自転車等の交通事故の件数を減らすための取組が望まれる。	遅刻指導については，教職員一丸となって遅刻の防止指導に努め，良い結果をおさめることができた。 しかし，登下校の際の自転車事故件数が年間２０件程度あり，交通安全教育を効果的に進めていくことが今後の課題である。
特別活動の充実 人権教育の充実	特別活動・部活動の活性化と，教育相談活動の取組をとおして，学校生活の充実を図る。	①学校行事について生徒会と意見交換し，より良い行事内容になるように努める。 ⇒生徒による学校行事満足度　８０％以上 ②部活動は顧問の専門性を配慮し，日々の指導において現場での指導を充実させる。 ⇒生徒による部活動満足度　８０％以上 ③支援を要する生徒への支援体制を充実させ，生徒の相談に随時対応できるよう，教育相談室を整備し，昼休みに開放する。 ⇒教育相談室を整備し生徒への開放，年間１００日以上	①生徒会との意見交換を活発に行い充実したものとなるように努めた。 ⇒生徒による学校評価アンケートでの学校行事満足度は９５％であった。 ②専門性，本人の希望に応じて顧問を配置し，日々の指導も生徒との会話を重視して行っている。 ⇒生徒による学校評価アンケートでの部活動満足度は８７％であった。 ③特別支援教育に関する研修会を実施し，支援を要する生徒への支援体制を整備・充実することができた。 ⇒教育相談室の開放は１１０日であった。	A 学校行事・部活動の評価指標上の目標値は十分達成できたが，次年度も生徒等の意見を取り入れ努力する。支援を要する生徒への支援体制については，次年度も個別に対応していく。	・常に高い評価であることは非常に素晴らしいと思う。「文武両道」の精神は，今後とも是非続けてほしい。 ・新聞に城南高校の記事が載るのを楽しみにしている。今後も，部活動の取組で生徒の活躍を知ることができることを期待している。	今後も生徒会との意見交換を行い，生徒アンケート等で生徒の意見を取り入れていく。 また，顧問同士の対話や部員と教員との対話を多くとることを心がけ，部内雰囲気の透明化に努める。 特別支援教育に関する研修会を実施し，教員の資質を高める取組を継続するとともに，関係諸機関との連携を密にして，生徒の支援体制を充実させる。
特色ある教育活動の推進	特色ある学校づくりの一環としてスーパーサイエンスハイスクールの活動を積極的に行い，成果を生徒の進路に生かすとともに，県下への普及を図る。	①スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）の取組により，生徒の理科や数学への興味や関心を深め，理科や数学の基礎的・発展的な力を身につけさせる。 ⇒ＳＳＨの取組により理科や数学の興味・関心が深まり，その理解が深められたと自己評価する生徒　７０％以上 ②科学部の自主的研究活動を促し，各種科学賞での入賞を図る。 ⇒各種科学賞での入選数　７以上 ⇒全国大会への出品　２以上 ③活動成果の県下への普及を図る。 ⇒小学生及び中学生対象実験教室の実施　３回以上	①ＳＳＨの課題研究や総合科学など，様々な取組を通し，生徒の理科や数学への興味や関心を深め，理科や数学の基礎的・発展的な力が身につくよう努めた。 ⇒応用数理科３年生に実施したアンケート・自己評価で３年間の活動に対する「満足」８２％， プレゼンテーション能力が向上したとする生徒　８５％ 研究方法や技能の習得ができたとする生徒　６９％， 理科や数学の理解が深まったとする生徒　６７％， 理科や数学への興味関心が高まったとする生徒　５１％ ②理科担当教員による放課後の指導等により，科学部の自主的研究活動を促し，各種科学賞での入賞を図った。 ⇒日本学生科学賞徳島県審査で最優秀賞１，優秀賞３，入賞３など。 ⇒日本学生科学賞中央審査に１チーム進出。 ⇒高校・高専気象観測機器コンテスト観客賞。 ③小学生対象理科実験教室を１回，中学生対象理科実験教室を１回実施した。科学体験フェスティバル in 徳島ブース出展で，来場者投票の結果，優秀賞を獲得した。徳島大学総合科学部と共同で，徳島県 SSH 高等学校課題研究および科学部研究研修会を開催し，他の高校にも参加してもらった。	B 全体的には目標を概ね達成できたが，興味関心の喚起については目標を下回った。一方，課題研究を通してプレゼンテーション能力が向上したという評価は高く，生徒の自信につながっており，今後も課題研究を軸とした取組を発展させたい。	・ＳＳＨの成果を普通科にも提供することで，学校全体で探求学習に取り組めるよう頑張ってほしい。 ・「研究のための研究」ではなく，理系科目への興味・関心の喚起に繋げてほしい。 ・新聞に城南高校の記事が載るのを楽しみにしている。今後もＳＳＨの課題研究の成果がいろいろなところで評価されることを期待している。	本年度は文科省の SSH 中間評価があり，本校の評価は「これまでの努力を継続することによって，研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの，併せて取組改善の努力も求められる」という結果であった。評価対象 49 校中上位 22 校以内ということで，一定の評価を得ることはできたが，改善点も指摘されている状況である。課題研究の指導については高評価であったが，SSH の取組等の成果を評価するシステム構築と，高大連携の部分で改善を指摘された。 今後は積極的に先進校視察や研修会を通して，新たな評価方法の研究と実践や，教員の技能向上を進める。また課題研究や各種コンテストへの校内指導体制を見直す。

【備考】評価・評定の基準　　A：十分達成できた　　B：概ね達成できた　　C：達成できなかった